



ボーイスカウト川崎地区賛助会は1984年に川崎地区協議会の財政支援を目的として、川崎地区の有志により設立されました。この会報「ブーメラン」は当会の歴史と活動内容を広く皆様へご紹介する目的で発行しているものです。また、賛助会の運営趣旨にご賛同ただけの方へのご入会促進メッセージでもあります。この機会に是非ご入会を検討いただければ幸甚です。

新年のご挨拶 会長 木村 耕三



新年明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。また、平素は日本ボーイスカウト川崎地区賛助会にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭様を持ちましてボーイスカウト川崎地区賛助会の運営が順調に遂行できておりますことをご報告申し上げます。

2020年の初頭に新型コロナウイルス（COVID19）が発生して以来、約4年間ボーイスカウト活動は制限を余儀なくされました。その後、2023年5月には感染症第5類に変更になり、やや沈静化してきたと思われまます。其れにより徐々にではありますが、ボーイスカウト活動はコロナ前と同じような活動が実施できるようになったと実感しております。

当会としましては2023年6月に総会開催、11月にゴルフコンペの開催致しました。2024年1月にはニューイヤーパーティーを開催する計画としています。

ゴルフコンペは復活事業として、昨年に引き続き千葉県大喜多城ゴルフ倶楽部にて約100名の方々に参加戴き盛大に開催することが出来ました。また、川崎地区への賛助事業としてのビーバー祭り、白梅隊、ボルチモア交流等々地区行事も滞りなく実行されており、喜ばしいことと存じます。特に川崎地区への賛助事業のうちボルチモアとの交流が4年振りに開催されました。ボルチモアから来川（来日）し、7月22日から8月7日まで富士山登山、浅草観光、host family dayなどの盛り沢山の交流が出来ました。スカウト達にとっても貴重な国際交流を楽しめたことと思っております。

これも会員の皆様のご協力の賜物と御礼申し上げます。

結びに会員の皆様には、今後ともご支援ご協力を賜ります様、衷心よりお願い申し上げます。

【賛助会事業報告】

■第2回チャリティゴルフコンペ 賛助会理事 田中勇人

令和5年11月15日、大多喜城ゴルフクラブにおいて、ボーイスカウト川崎地区賛助会主催の第2回青少年育成チャリティゴルフコンペが盛大に開催されました。

イベントには91名の熱心なゴルフ愛好者が参加され、楽しく優雅な時間を共有しました。このコンペでは、株式会社アオイ機工の青柳様が見事なプレーを披露し、優勝を果たしました。参加者全員がスポーツマンシップを体現し、チャリティ活動に熱心に参加することで、川崎地区のボーイスカウト活動の支援を賜りました。



このチャリティゴルフコンペは、地域社会との連帯感を高め、青少年たちの育成を促進する素晴らしい機会と成ったと確信しております。

ボーイスカウト川崎地区賛助会は、コンペに参加いただいた皆様、ご協賛いただいた企業・団体、そして大多喜城ゴルフクラブに心より感謝いたします。今回の収益は、川崎地区のボーイスカウトたちの育成プログラムやアウトドア活動のサポートの一助と成ります。

今回、参加して頂きました皆様のように心優しい人間と成れるよう、いつでも人を助けられるように育成して参ります。

次回のイベントも皆様のご参加お待ちしております。

■令和5年度川崎地区事業報告

●ビーバーまつり

6月11日、川崎地区のビーバースカウトのイベント「ビーバーまつり」がこどもの国の平成記念館行われました。当日の参加は、総勢約200名。梅雨空の下、ゲームやクラフトなどが展開され、元気な声が会場に響き渡りました。

「ビーバーまつり」は、直近5年余りの間、コロナ禍の活動自粛や会場の都合で実施できていませんでした。今回の実施はかなり久しぶりとなりました。



これまでの「ビーバーまつり」は、学校の体育館や校庭を使って実施していましたが、昨今の事情や持続可能性、感染リスクの観点から会場を移しました。もともと梅雨の時期のプログラムとして始まったものですので屋根があることが必須ということで、こどもの国の平成記念館となりました。

梅雨の時期とあって、すっきりとした天気とはなりませんでしたが、ビーバースカウトたちの元気な声が飛び交う、楽しく有意義なイベントとなりました。



久しぶりの「ビーバーまつり」にもかかわらず、滞りなく展開できたことは、実行委員の皆さんや関係者の方々の努力のおかげではないでしょうか。

●白梅隊

ボーイスカウトを対象とした「第51期白梅隊」のプログラムが9月2日から11月3日の期間実施されました。今回の参加は14名。参加者は例年より少な目だったものの、出席率は高く有意義な活動が展開できました。

今回の白梅隊のメインのプログラムは、1



泊2日の移動野営とパイオニアリング（モンキーブリッジづくり）。概ね例年通りの内容です。

移動野営

（10月8～9日）は元箱根をスタートして外輪山を右回りで半周し、湖尻でテント泊。翌日に乙女峠、金時山を経て御殿場駅に抜けるコース。移動野営の期間中ほとんどの時間帯で雨に降られました。それでも、参加スカウトのほぼ全員が歩ききることができました。移動野営の翌週はパイオニアリング&解隊式。しかし、このプログラムは雨で延期となり、11月3日の実施となりました。

今回の白梅隊はとにかく雨に泣かされました。そのような中、スカウトたちはかなり頑張ったのではないのでしょうか。

●GATC 川崎第28期に隊旗が登場

ベンチャースカウトを対象とした集合訓練「ゴールデンアックス トレーニングコース川崎第28期（GATC28）」が9月2日の結隊式から活動がスタートしました。今回の参加は17名。現在、オーバーナイトハイクが終わり、BP祭に向けて企画が進行中といった段階です。今後は、グループ単位でのプロジェクトやパイオニアリングなどの活動を展開し、2024年5月に予定されている移動野営までプログラムが続きます。

半年をこえるプログラム。スカウトたちの成長が楽しみです。

今回のGATC28から「隊旗」が登場。これまでも、斤をモチーフにした盾のようなものをGATCの隊のシンボルとして使っていましたが、諸般の事情から隊旗に変更することとしました。隊旗はGATCのチーフと同じグリーンと白のさわやかなデザイン。今後のGATCの新たな伝統として、永く使用されるものとなります。



なお、この隊旗は賛助会の全面バックアップで作成したものです。ご支援いただきありがとうございます。

●第29回ボルチモア川崎スカウト交流派遣

国際委員長 西角 恵輔

ボルチモア川崎スカウト交流は、パンデミックの影響で2019年の川崎からボルチモアへ

の派遣を最後に物理的な交流は途絶えておりました。2023年は受入事業としては5年ぶりに、ボルチモアから5名のスカウトと5名のリーダーを迎え、川崎側のスカウト、リーダー、保護者との間の交流が復活いたしました。川崎側では、ボーイスカウトのみならずガールスカウト川崎市連絡会の協力を得ながら、2023年1月より実行委員会が発足し、また5月にはファニーベアキャンプ隊（受入隊）が結隊し、受け入れのための様々な準備を進めて参りました。ボルチモア隊は7月22日に来日し、ウェルカムパーティー、浅草観光、富士登山、ファニーベアキャンプ（八ヶ岳少年自然の家）、市長表敬訪問、川崎大師参詣、体験プログラム（太鼓、殺陣、茶道など）に参加しました。またホストファミリーとの交流を楽しみ、日常生活を通じた異文化体験をしました。ボルチモア隊が主催したさよならパーティーでは、ボルチモアの料理とアトラクションでボルチモア、川崎の両者が楽しみ、喜びを分かち合うことができました。



このような素晴らしい交流が復活し、次の交流への架け橋になったのも、様々な方々の協力があったからです。聖マリアンナ大学様には、富士登山やボルチモア隊の医療サポートで多大なる協力を頂きました。通訳サポート、富士登山のサポートには、外部の支援者の力を借りました。ホストファミリー、実行委員会やファニーベアキャンプ隊としては、ボーイスカウトおよびガールスカウトの保護者、リーダー、ローバースカウトの多大なる協力を頂きました。そして賛助会の皆様には、資金面の協力を受け、この交流を支えて

頂きましたことを、心より感謝申し上げます。

来年度は川崎からボルチモアへの派遣となりますが、この事業が始まって、30回目の交流、39年目となり、次の受入は40周年となります。この交流事業が益々発展し、スカウトや関係者の国際交流の一助になることを願って止みません。賛助会の皆様には今後とも様々な面でご支援の程、何卒よろしく願い申し上げます。



【トピック】

■第25回世界スカウトジャンボリー開催

2023年8月1日から12日まで韓国・全羅北道セマングムで第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）大会が開催されました。一部ですが参加スカウトの報告をご紹介します。



●川崎第54団 荒木 愛那

“See you in Poland” 別れ際に各国の仲間達と交わした言葉です。今回韓国のセマングムで行われた第25回世界スカウトジャンボリーに私は International Service Team として参加しました。ISTは派遣隊とは異なり、大

会の運営側としてプログラムに奉仕し、与えられたジョブの運営を行います。私は off-site program に配属されジャンボリー会場外で行われるテコンドープログラムの運営をおこないました。と言っても実際にアクティビティを仕切るのは現地のボーイスカウトボランティアとテコンドー施設の方で IST の主な仕事は参加隊スカウトたちの安全管理でした。テコンドー施設はジャンボリー会場からバスで2時間ほどの場所にあったため、プログラム中は毎日2時間の道りを様々な国のスカウトと一緒に往復していました。



このように IST の魅力は世界各国のスカウトと近い距離感で接することができる点だと思います。また、ジョブ仲間も多様な国籍の人がおり、コミュニケーションは英語で行っていました。人に恵まれジョブ仲間とも沢山の交換品をスワップしました。

大会がようやく折り返し地点に辿り着いた頃、台風の影響でセマングムからの退避を大会運営側から伝えられました。まずは参加隊のスカウトの退避が優先され、その後に IST が続く形でした。ここから「移動ジャンボリー」が始まりました。最初の避難先である救仁寺には IST は深夜1時過ぎに到着し、2泊ほどし、その後は帰国日まで大学の寮を繋ぎ歩きました。次の日どこに泊まるか分からない状態や、深夜移動が続く大変なことも多かったです。しかしこの困難な状況や言葉や文字も通じない土地で頼れる人が周囲の IST だけであったため、絆は言葉では表せないほど深まりました。帰国後も定期的に多くの仲間と会っています。また IST として参加したこと

で、日本各地から派遣されたスカウトと出会うことができ、スカウティングの幅が広がったように感じました。



今回のジャンボリーでは日本はもとより、それ以上に様々な国のスカウトと仲良くなることができ「スカウトは兄弟」という言葉を体現したような大会になりました。

次回、第26回世界スカウトジャンボリーはポーランドで開催されます。ぜひ次のジャンボリーに参加してみたいと思ってくださったらとても嬉しいです。“See you in Poland!”



●川崎第46団 風呂田 結

ジャンボリーに参加した感想として、とにかく楽しくて本当に特別な時間だったなと思います。

『世界中のスカウトが集まる大会だ』と友達に簡単に説明していたり、あれこれと想像していたものの、実際に行くまでは海外であること、ジャンボリーに参加するという実感が湧いていませんでした。

いざ会場に到着してみると、すぐ近くからドイツ語、韓国語、英語、フランス語などたくさんの言語が聞こえてきます。そこで初めて本当にジャンボリーに来たんだ！という実感が湧き、物怖じせずに話しかけようという思いで海外のスカウトとコミュニケーション

を取ることが出来ました。英語が流暢に話せるわけではありませんが、英会話に対しての苦手意識はあまり持っていなかったのが、英語での会話も楽しく行うことができました。

参加スカウトとしての経験はもう二度と出来ないと思うと後悔している部分もありますが、ジャンボリー参加に向けて後押ししてくれた家族やジャンボリー運営の方への感謝の気持ちが大きいです。今回のジャンボリーは世界中から注目されていて悪いニュースとして流れているのを見ましたが、私的には悪い部分よりも楽しかった思い出ばかりが記憶に残っています。

この世界ジャンボリーの言葉では表しきれない楽しさや感動を後輩のスカウトにも共有したいと思っています。そして、ジャンボリーに行く前はあまり魅力を感じていなかった4年後のポーランドも今では行きたい！！という思いが強くなり、語学の勉強に対しての学習も前向きな気持ちで出来るようになりました。最近では洋画、洋楽など積極的に英語を聞くようにしています。



●川崎第46団 原田 莉子

ジャンボリーから帰ってからもいまだに写真フォルダを見返して、余韻に浸ってしまうくらい、充実した時間を過ごしました。会場は想像以上の暑さであったり、台風の影響により途中で移動することになってしまったりと、大変なこともあったけれど、それ以上の楽しさがあったと感じています。

私は11年間ボーイスカウト活動をしていますが、今までの中で一番楽しく、参加して良か

ったと思っています。英語は、全く得意ではなくむしろ苦手でしたが、外国のスカウトと話したり、バッジなどの物を交換（スワップ）したりして仲良くなりました。開催国の韓国のスカウトとは一緒に腕相撲大会も行いました。

派遣を通して、英語に対しての苦手意識も減って、もっと話せるようになりたいと思うようになりました。今は、4年後のポーランドにISTとして参加したいと考えています。それまでに、もっともっと英語を勉強して、今回以上に楽しみたいです。



【賛助会情報】

■川崎市から感謝状を授与されました

令和5年7月10日、木村賛助会会長と境理事が第1回チャリティゴルフコンペの収益金の一部を川崎市こども未来局青少年支援室に訪問し寄付させて頂きました。その際、川崎市長から感謝状を頂きましたので報告します。



■賛助会員の分布(2023年12月現在)

準会員 10名
個人会員 99名(議員含む)
団体会員 28団体(法人含む)

■理事会報告

➤第216回 2023年4月16日

於：川崎総合自治会館

- (1) 賛助金関連
- (2) 令和4年度決算見込み・令和5年度予算
- (3) 地区活動報告
- (4) ブーメラン発刊について
- (5) チャリティゴルフコンペの収益について
- (6) 賛助会総会について
- (7) アクションプラン進捗
- (8) 規約変更検討

➤第217回 2023年7月9日

於：川崎総合自治会館

- (1) 賛助金関連
- (2) 川崎市議各党のヒアリングについて
- (3) チャリティゴルフ関連
- (4) ボルチモア交流派遣事業
- (5) 地区活動報告況
- (6) アクションプラン進捗
- (7) ブーメランの発刊について

➤第218回 2023年9月10日

於：川崎総合自治会館

- (1) 賛助金関連
- (2) 川崎市議各党のヒアリングについて
- (3) チャリティゴルフ関連
- (4) ボルチモア交流派遣事業
- (5) 地区活動報告
- (6) アクションプラン進捗
- (7) ブーメランの発刊について
- (8) 7月19日故楠明氏弔問

➤第219回 2023年10月15日

於：川崎総合自治会館

- (1) 債権についての提案
- (2) ゴルフコンペ実行委員会

➤第220回 2023年11月5日

於：川崎総合自治会館

- (1) 野村証券 川崎市市債への転換について
- (2) 賛助金関連
- (3) 地区活動報告
- (4) ブーメラン発刊について
- (5) アクションプラン進捗
- (6) ニューイヤーパーティについて
- (7) ゴルフコンペ実行委員会

➤第221回 2023年12月10日

於：川崎総合自治会館

- (1) 野村証券 債権購入報告
- (2) 賛助金関連
- (3) 地区活動報告
- (4) 地区からの「2024年度賛助金申請」
- (5) ブーメラン発刊について
- (6) アクションプラン進捗
- (7) ニューイヤーパーティについて
- (8) ゴルフコンペ実施報告・決算及び収益の分配について

■総会開催

2023年6月11日

於 川崎総合自治会館ホール

■会員の声を募集しています

本誌では会員の皆様からの声を随時募集しています。テーマは自由、400字程度の原稿と写真を是非お寄せください。送り先は下記会事務局へお願いいたします。

賛助会事務局：sanjokai@scout-kawasaki.or

■会員募集

賛助会は随時会員を募集しております。青少年育成にご理解とご支援をいただける方の参加を歓迎いたします。

◆賛助会員の種類と会費

- ・準育成会員（年会費） 一口 2,000 円
- ・個人会員（年会費） 一口 5,000 円
- ・団体会員（年会費） 一口 10,000 円

お問い合わせならびにお申込み、ご意見・ご希望は下記へご連絡ください。

◆お問い合わせ:賛助会事務局:鈴木

・E-mail : sanjokai@scout-kawasaki.org

・ホームページ :



日本ボーイスカウト川崎地区賛助会

検索

●編集後記

新年明けましておめでとうございます。

創刊8年目となる今回のブーメラン16号から新体制で編集することになりました。これまで通り、ボーイスカウト川崎地区の事業場状況や賛助会事業の報告などを皆様にご紹介させて頂きたいと思っておりますので、引き続きのご支援のほど何卒よろしく申し上げます。(K)

【法人会員のご紹介】

順不同・敬称略

富士高圧ガス工業株式会社 神奈川県川崎市鋼管通 代表 谷屋 利隆	株式会社 デタケ 神奈川県川崎市中原区新城 代表 出竹 惇文	株式会社 沼崎商会 東京都世田谷区尾山台 代表 沼崎 匡一
日本エード株式会社 東京都中央区日本橋本石町 代表 小清水 克臣	株式会社 上作商店 神奈川県川崎市高津区向ヶ丘 代表 手塚 功	有限会社トミーエンタープライズ 東京都世田谷区用賀 取締役 富山 純江
株式会社 保育所ひまわり 神奈川県川崎市幸区小倉 代表 耳田 英恵	特定非営利法人 子育てを応援する会 神奈川県川崎市高津区末長 代表 飯野 道子	呉エンジニアリング有限公司 神奈川県川崎市中原区中丸子 代表 野沢 義幸
株式会社 アヴォン 保育所 ピッコリ・アンジェリ 川崎市高津区末長 代表 青木 しづ子	コパロン株式会社 宮城県仙台市宮城野区扇町 代表 長澤 清	株式会社 アップ総合企画 神奈川県川崎市川崎区元木 代表 田中 勇人
株式会社 多摩設計 川崎市川崎区貝塚 代表 岩田 崇		